

# 未来

郵政産業ユニオン  
**PIWU**  
全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙・「みらい」  
NO. 3914  
18年12月18日(火)  
Fax 095-828-1953

## 長崎バスユニオン闘争 支援総決起集会開催

おはようございます。  
寒くなった十二月十日。長崎バスユニオン闘争支援総決起集会が勤福で開かれ、百人を超える人たちが参加した。十八時、地区労の石丸副議長が開会のあいさつを行い、小宮地区労議長があいさつ。それから市議の池田章子さん、県議の坂本浩さんが支援の挨拶。中川弁護士が労働委員会裁判の報告、高バスユニオン委員長が決意表明、地区労加

世田書記長の闘争報告、高委員長の団結カンパニーで集会は終了した。



日本には、古来「石の上にも三年」という諺がある。辛抱を説く典型だ。バスユニオンもこの十四日で結成からまる三年。しつかり頑張ってきたから花が咲く頃だろう。

しかし、現実はそのではない。石の上ではいくら水や肥料をやっても、花は咲かず美もならない。辛抱だけではだめ、たたかいを挑まなければならぬ。本当の教訓はここなのだ。

バスユニオンの結成は十二月十四日だ。この日は日本で一番有名な忠臣蔵の討ち入りだ。(旧暦だが)。三年前、バスユニオンに参加した六八名の心意気は、まさに、四十七

士にも似た気分だったろう。自らの存在をかけて、思いをとげる、という熱いものがあったと思う。

バスユニオンは結成直後二か月で組織は倍増したが、その後始まる会社と多数派労組(私交通八〇〇名)の妨害で、流れが止まり、現在は百二十名だ。

会社と私交通の妨害は、「労組を異動したら担当車両(バスの専有権)をとりあげる」として、バスユニオンの組合員に致命的な不利益攻撃をかける。これは現場では辛い、まさに運転手にとって働く毎日の大事な生命線だったのだ。



以降さまざま不当労働行為や処分、強制配転、残業差別、まさに差別のオンパレードの長崎バスのブラックな組合つぶし攻撃がかかる。

労働委員会闘争の中川弁護士報告では、バス貸与で和解ができず、労働委員会も命令も引き伸ばされている。このままでは命令が来年の夏以降となる可能性もある。処分取り消しの裁判闘争もしつかりたたかいたいと述べられた。

高委員長は、会社は今五十人の人不足だ。その上に今回、ポーナスのあと会社を辞めて、他社へ変わる人がかなりいる見込みで、会社も私交通も大変だ。裁判などをやっているときではない。私たちに協力を求めることが正しい。と、労使関係の正常化こそ、これを解決する道であり、団結して頑張り、決意を表明された。



バスユニオンは、結成以来五度の二四時間ストライキを打ち、団交や労働委員会提訴、裁判闘争と、元気にたたかっている。

しかし、日本の労働組合の歴史で、少数派の労組が反対派を続けて多数派に転じた例は少ない。しかも組織の命は三〇年から四〇年だ。指導部はこれを明確に意識して、職場の差別に負けず、少数派として生きていく決意を持たなければならぬ。いきなりの多数派は望めないにしても、昔

職場で安心して働くには、この道しかないからだ。全国にこつした思いを持つ人は多いが、一人ひとりには、差別や処分、配転は怖い、という現実が待ち構える。

結成三年を超えたバスユニオンの総括は、つぎの五年、一〇年の組織や運動方針であると思う。これを期待したい。

、写真上から、高バスユニオン委員長、中川弁護士、集会の模様

\*\*\*\*\*

## 辺野古基地建設反対、土砂搬入に抗議

「沖縄・辺野古米軍基地建設は国民のためだ」と強弁し、国は埋め立て工事を強行している。

しかし、沖縄県民の民意は、辺野古基地建設反対である。前の翁長県知事、そして秋の選挙で勝った現職の玉城知事とも、辺野古反対で、工事認可を取り消したが、国は県民の意思などくみとらない。

沖縄県民は長い間反対してたたかってきた。そしていよいよ埋め立て、土砂搬入という事態に、在沖縄の元郵政ユニオンの先輩たちや、シルバユニオンの仲間たちも駆けつけ、ともにたたかっている。私たちも反対であり、国の辺野古基地建設に抗議する。



、写真は、沖縄現地闘争に参加している方から送ってもらったものです。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。  
1集-御手洗, 2集-向井, 3集-山田, 郵便-山口 ゆうちょ銀-上筋, 東-, 他支部・分会の役員へ。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。 期間雇用社員の希望者全員を正社員化を。 めざせ、均等待遇、なくそう差別! ユニオンは労契法裁判に勝利するぞ!